



救済医療活動を行うAMDAのチーム

災害時拠点寺院が七十カ寺を超える

医療ボランティアAMDAとの協力体制築く

一隅を照らす運動総本部
(福恵善高総本部長)では、

今春、国際医療ボランティア「特定非営利活動法人AMDA」(本部＝岡山市)と災害発生時に被災者救済医療活動を後方支援するために寺院の境内地を提供するなどの協力体制を立ち上げ、災害時拠点寺院の選定を進めていた。その結果、半年を経過した現在、全国各教区で七十カ寺以上が協力を申し出ている。

東日本大震災という未曾有の災害を受け、同運動総本部が「地球救済活動」の一環として確立したこの後方支援の

協力体制は、単に救済拠点の提供という面だけではなく、医療面と宗教者による心のケアという救済活動面での協力に大きな意味がある。

また、日頃の寺院活動により地域住民との密接なつながりを持つ寺院は、細やかな情報を提供でき、被災地に入る救済者もスムーズな活動が可能になり、AMDA側にとっても待ち望んだ協力関係である。

福恵総本部長は「東日本大震災の救済活動では、効率的な支援活動の体制が確立されおらず、被災地のニーズにあつた的確な支援が行えていたか、反省面もあつたのではないか。こうした災害時拠点寺院の体制が強固なものになれば、今後は迅速な対応が出来ると思う。また、寺院にとつても、日常における寺院活動が意識的に幅広くなるのは」と各寺院の更なる協力を呼びかけている。